

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 10 月 27 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100660		
法人名	社会福祉法人 共助会		
事業所名	グループホーム 畑賀時計台		
所在地	広島市安芸区畑賀2丁目23番33号 (電話) 082-820-6190		
自己評価作成日	令和3年9月24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=3490100660-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=3490100660-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 27 日 (水)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>・家庭的な雰囲気大切に、利用者様が穏やかに過ごせるよう細やかな支援を心がけている。</li><li>・認知症予防のため毎日、体を鍛えたり脳を活性化するようなレクリエーション活動やクラブ活動を継続し、生活リズムを整えるよう努めている。</li><li>・町内会に加入し、地域の行事にも積極的に参加、地域の方々との連携を図っている。</li></ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム畑賀時計台は、同法人の老人保健施設と隣接しており、行事等で利用者も参加し連携している。又、交通の便が良い住宅街で、山や川に囲まれた環境の良い場所に位置している。開設から6年、利用者が安心と安らぎのある自分らしい生活ができるように日々、身体機能の維持ができるよう体操、レクリエーション、好きなクラブ活動をし、楽しみな時を過ごしている。職員は利用者一人ひとりのニーズや思いに寄り添うケアに努めている。開設以来、地域との交流は盛んで、事業所内の地域交流館でオレンジカフェが開かれ、地域の方と楽しまれている。地域ボランティアの方の四季折々の花の提供は、楽しみになっており、利用者は生け花にして、癒しとなっている。地域の少学3年生が花の苗と手紙を届けてもらったり、保育園児さんが園内で作られた野菜(玉ねぎ、ジャガイモ)を持って来られる等、地域と交流している。地域との関係や、家族との絆を一層深め、職員は研修を重ね、スキルアップを継続し、より良い支援に取り組んでいるグループホームです。
--

グループホーム 畑賀時計台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念を事業所内に掲示している。職員は毎日、朝礼で理念を唱和し、理念に沿った支援を心掛けている。	理念(笑顔と挨拶)を忘れず親切で丁寧な言葉づかい、美しい態度で(目配り、気配り、心配り)を職員は毎日朝礼で唱和し、理念に沿った支援ができているか確認し、理念を共有して日々実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	町内会に入り、コロナ状況で地域の清掃活動や行事の中止が増えているが、近隣の幼稚園・小学校との交流については、直接交流はできないが育てたパンジーを手紙と一緒に先生が届けて下さっている。また地域の方が自宅で育てた花を届けて下さりと交流がある。	町内会に入り、地域の方と交流があり、コロナ禍で中止の行事もある中、地域の小学3年生が花の苗と手紙を届けてもらったり、地域の方が四季を感じる事ができる花を沢山持って来られ、利用者の皆さんで生け花にして喜ばれている。保育園児さんが園内で作られた野菜(玉ねぎ、ジャガイモ)を持って来られる等、地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ感染予防対策を講じて月1回 認知症カフェ開催。集中対策等あり中止することが増えた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月1回、運営推進会議を開催。事業所内の報告や防災についての検討会議を行ない出席者からアドバイスを受けミーティングで検討し活用する事例があった。	2ヶ月に1回運営推進会議を家族、町内会長、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、地域ボランティア、管理者の出席で開かれている。事業所の状況、活動報告(利用者の転倒が多かった時、業者からの福祉用具を使い転倒防止ができた事)をしている。地域の方から防災連絡を多く伝達してもらっている。コロナ禍で開催出来ない場合は、事業所だけで開催し、書面を委員さんに送り、返信用封筒を入れて皆さんの意見を聞いて、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者より頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の案内を市へ提出し出席を依頼するが欠席。地域包括支援センターや社協等に利用者や職員に関する相談を行い、助言を得て事業所の運営に活用している。	市役所介護保険課事業者指導係、地域包括支援センター、社会福祉協議会等、わからない事があれば相談し、助言を得ている。運営推進会議の案内をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの重要性について法人内勉強会や事業所内で研修を行なっている。また外部の研修に参加して報告。毎月ミーティングで話し合い対策を講じている。出席できない職員には後日資料を配布し説明を行なっている。やむを得ず身体拘束を行う場合は家族に説明をし、文章にて同意を得ている。 3ヶ月1回、身体拘束廃止委員会を開催。	身体拘束をしないケアの研修を、法人、事業所で行われ、外部研修に参加して、職員全員に身体拘束をしないケアの重要性を、一人ひとりが自覚し理解するようにしている。 3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を開き、事例を出して話し合い、参加者の意見を聞いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員は高齢者虐待防止関係の法人内勉強会や外部研修に参加し学んでいる。またミーティング等で虐待に関する気付きを話し合い防止に努めている。		

グループホーム 畑賀時計台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	職員は権利擁護に関する研修に参加し学んだことを、ミーティング等で話し合い、利用者様の対応に活かしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、重要事項説明書及び利用契約書、個人情報同意書、重度化対応・終末期ケア対応方針の書面を提示。ゆっくり丁寧に説明し、理解・納得をしていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員と家族交流、家族間の繋がりを深める目的で年2回ほど「家族交流会」開催を予定していたが、コロナ感染拡大により延期させて頂いている。面会制限もあり、ご家族様にはzoom面会や毎月のはすけ通信を郵送と電話にてグループホームでの様子を報告させて頂いている。苦情があった際は速やかに対応させて頂いている。	家族には毎月、請求書と一緒に「はすけ通信」を送り、事業所の活動、行事をお知らせし、利用者の様子を伝えている。コロナ禍で面会が出来なくなり、電話、手紙で家族の要望や意見は可能な限り受けて対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に面談を行い、職員の意見を聞き改善できるところはミーティング等で話し合い改善に努めている。月1回ミーティングで職員の意見を聞くようにしている。	管理者は、個人面談を行い、職員の意見、要望を聞き、個人的な相談も受けている。ミーティングでの話し合いは、職員全員で同じ方針を共有し、管理者、職員はコミュニケーションをとり、意見交換を行い職員の意見や考えを反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	休憩時間の確保や感染対策などできるだけ働きやすい環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修案内をだし希望を募って平等に研修を受ける機会を設けている。また月2回程度、法人内勉強会を実施。研修委員による施設内勉強会も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他の施設や法人内の事業所と連携を図り、話し合いの場を設けている。安芸区内の勉強会に参加して意見交換を行っている。		

グループホーム 畑賀時計台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時の初日から初期アセスメントを実施している。初期計画を作成し、ご本人の希望を確認し、できる事をプランに取り入れ難しいことを介助させていただき自立支援に向けたサービスを提供。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時の初日から初期アセスメント実施。初期計画書を作成し、利用者様の希望を確認してプランに取り入れサービスに反映している。家族様の相談事にはその都度対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期アセスメントをしっかりと実施。、ご家族の意向を伺い、適切なサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員と利用者様が対等な立場で同じ目線で話し、ともに生活して信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族様と共に利用者様を支え合って支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナ感染予防対策を実施しながらこれまでの馴染みの関係が途切れないように zoom面会や電話で様子を伝えるなど気配りを行い対応に心がけている。	コロナ禍で面会が出来なくなり、家族とはzoom面会や電話で話し、手紙、写真を送付し支援している。家族からは、誕生日の花束が届いている。家族、馴染みの人との関係が、途切れないよう支援している。僅かな面会も利用者、家族は喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の性格や相性等を把握し、席順など配慮しながら利用者同士が関わり合い交流を深められるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院等により退居された場合でもその後の経過確認を行ない、家族様の相談、援助に努めている。		

グループホーム 畑賀時計台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の意向や要望は職員間で共有し、ケアプランに反映している。字を書くことが好きな利用者様にはボードに献立メニューを書いてもらったりと利用者様の要望を実現している。	日々の生活の中で、利用者の思いや要望を聞き、手伝いをしたい方、字を書きたい方、会話されない方は家族から、生活歴を聞き、利用者の表情を汲み取り、意向の把握に努め本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境 これまでのサービス利用の経過などしっかり把握し、その情報は職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりADLや心身の違いを把握し、本人様の能力に応じてそれぞれの過ごし方をさせていただいている。連絡ノートを活用し、きめ細かい情報把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントで情報を把握し、日々の個人記録や計画の実施状況を確認。本人・家族様、担当職員も参加して担当者会議を開催し介護計画の検討を行っている。フォーミーティングで他の職員の意見を聞き、3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、計画を見直ししている。	毎日の個人記録を詳しく記録している。職員全員で状況を把握し、利用者、家族の要望に沿って、担当者、職員は3ヶ月毎のモニタリングを行い、6ヶ月で見直しをし、状態に合わせたプランを、計画作成担当者が作成している。利用者の状態や家族の要望があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、ケアプランをチェック表に記入し、記録を残し職員間で共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々生まれるニーズに対して、施設内で対応できることは柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の保育園児との交流や小学校との交流を企画していたがコロナ感染拡大のため中止。生徒さんが育てたパンジーと手紙を先生方が届けてくださっている。地域の関わりを大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者・家族様の希望でかかりつけ医を決め、各医師と連絡を取り対応している。事業所の協力医を主治医とする利用者が多く、協力医は月2回往診し利用者の健康状態を把握している。訪問看護師と契約しており、週1回訪問し利用者の健康状態を把握。24時間連携体制を確保している。	入居時、利用者、家族にかかりつけ医の希望を聞き、それぞれの医師の受診で対応している。事業所の協力医は月2回の往診、訪問看護師の週1回の訪問で、健康管理をし、24時間体制の医療で対応している。訪問歯科医は月2回の往診、専門医受診は家族対応をお願いしている。できない場合は職員同行で受診対応し、適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホーム 畑賀時計台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師と随時、連携を図り利用者様が適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から地域の病院とは密に連携を図るように努めている。入院時はご家族様の了承を得て入院時サマリーを送付。入院時は本人様の情報収集のため面会や医療連携室との連携に努めている。退院時も同様に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事業所としては要望があれば看取りを行う方針である。利用者が重度化した場合には家族の要望を確認し、医師の判断を基本として支援策を立て対応している。今まで数例の看取り時例がある。(家族様、医師、訪問看護師、職員との連携を図りながら支援に取り組んだ)	入居時、利用者、家族に終末期の対応について希望を聞き、支援が必要になった場合、再度家族の意向を聞き、医師の指示を受け、家族、医師、訪問看護師とチームで支援に取り組んでいる。最後まで職員は声掛けをし、利用者の幸せな最後になるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生に備え、マニュアルを完備し、職員が皆で情報を共有している。また急変時や事故発生時はその都度臨機応変に対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災訓練に関しては職員の研修や消防署立会いの下、年2回施設内で火災を想定した訓練を行っている。消火器の訓練も実施。災害について地域の防災会長・副会長 民生委員等話し合いの場を設け施設内の避難方法について報告や地域の防災情報等入手し、地域との協力体制を図っている。自然災害時の運用マニュアル作成し、職員に周知徹底している。	年2回の火災訓練を消防署指導で実施し、全員が水消火器も使えるように訓練し、初期消火、避難をマニュアル沿った連携ができるよう徹底している。訓練実施の際は地域の方も参加され、協力体制を図っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格の尊厳やプライバシーに関する研修を法人内や施設内で実施。職員は利用者様に対して、誇りやプライドを傷つけないように言葉遣いや対応に気を付けている。利用者様の個人情報やプライバシーを話さないことを徹底し、職員間でもお互いに注意し合っている。	人格尊重、プライバシーの確保については、外部研修をzoomで受け、職員全員に伝え内部研修も行っている。又、尊厳、プライバシーを損ねない言葉遣いを一人ひとりが、理解し声掛けをするよう特にトイレ、入浴の際の対応は気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症の利用者様や表現が思うように出来ない方に対し、言葉だけでなく動作や家族様の情報を汲みながら、自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	レクリエーション活動やグループワークなど大まかな一日の流れはできているが、利用者様の個性やその日の体調・精神状態など配慮しながら対応している。		

グループホーム 畑賀時計台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時ら整髪や洗顔、着たい衣服などその人らしい装いが出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼食・夕食は1ヶ月単位で献立が立てられ外部業者から食事が提供されている。朝食は一品は手作り、みそ汁・ご飯・ヨーグルト・漬物がふりかけ提供。月1回程度 手作り料理の日を設け、利用者様の要望を聞き、ちらし寿司や季節にあった料理を提供している。	昼、夕の食事は食材業者から、朝は職員の手作りで提供している。毎月一回は利用者の好みを聞き、職員の手作り料理が作られ、利用者は、皆さん喜ばれ完食している。誕生日にはケーキのデコレーションをして皆さん楽しんで食べている。状況により、ソフト食、ミキサー食、刻み食を提供している。認定看護師さんの指導で食べられる状態になり、元気になられた方があり食が進むよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事量や水分量をチェックを行い、一人一人が栄養面や水分不足にならないように十分配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	月1～2回の訪問歯科サービスを受け、指導・助言を頂いている。それを参考に毎食後、一人ひとりの口腔ケアに取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	毎日、排泄チェック表に記入し、個々の排尿・排便の情報を把握している。チェック表を参考にしながら、利用者のトイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援など自立に向けた支援を行っている。	毎日の体調を排泄チェック表に記入して、声掛けをし、誘導している。便座に座る事で自然に排泄ができるよう支援している。排便コントロールは医師の指示、水分摂取のチェック表に記録し、水分が充分取れるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の排便状況を把握し、水分補給やできるだけ座位が取れる方は座位で排泄していただき便秘にならない工夫をしている。医療と連携し、排便コントロールがスムーズにいくように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回と決めているが、利用者様のその日の体調や精神状態に合わせて実施している。入浴の際、職員と会話しながらゆっくりと時間をかけて楽しんでもらえるよう支援している。機械浴もあり車いすの方はリフト浴で湯船に浸かり気持ちよく過ごしていただくよう支援している。	入浴は週2回体調に合わせて、希望に添えながら、ゆっくりと職員と話しながら楽しみ、入られている。リフト浴を使用される方もあり、2人体制で介助されている。入浴できない場合は日を変えている。状況により清拭、シャワー浴があり支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの体力や体調に合わせて休憩して頂いている。睡眠時間も本人様の状況に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師や訪問看護師の指導の下、一人ひとりの服薬情報を介護職員が共有し事故の無いように対応している。		

グループホーム 畑賀時計台

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様の個々の趣味や生きがいなどを反映して、食器拭きや掃除などお手伝いをして頂いている。また日中活動(月々のカレンダー・壁画作り、一行日記、習字、生け花)など毎日、楽しく過ごせるよう提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	年間行事の中にお花見や外食、地域の行事などに参加をして頂くように予定をしていたが、コロナウイルス感染予防のため中止となり、施設内での行事や食事会に変更して楽しんでいただいている。施設の花壇や植木鉢に水やりなど職員と一緒に楽しんでいただいている。	年間の外出行事がコロナ禍で中止となっている。楽しみな行事で気分転換できるよう職員は生活のリズムを整え、毎日レクリエーションや行事を工夫し、2階のバルコニーで体操をしたり、1階のベランダで花の水やりをして日光浴がしっかりできるよう支援している。病院受診の際は家族と一緒に外出されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の所持金は家族が施設管理となっている。生活に必要なものがあれば、家族様に連絡して持ってきて頂くか預かり金の中から購入させてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話やzoomを希望されている利用者様、家族様には職員が対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	職員が施設内の掃除と庭の花の管理を行っている。共有部分や居室の掃除は毎日実施して清潔感を保っている。季節の花を飾ったり、利用者様の作品を掲示して居心地よく過ごせるように工夫している。花の水撒きやシーツ交換と一緒に手伝って下さる利用者様もおられる。	リビングからはベランダの花や周りの景色で四季を感じられ、明るい共同空間にクラブ活動の作品、花、カレンダー、季節の壁画が飾られ、清潔で居心地の良い生活空間を工夫している。温度や湿度、換気を行い、清潔面に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルや椅子の配置、座席にも気を配り仲良く過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	長年使い慣れた家具や置物などを居室に置いていただき、本人様が落ち着く環境を整えている。利用者様は家族の写真や手紙を壁に掲示するなど居心地よく生活できるように工夫している。	居室には利用者が家庭で使われていた馴染みの生活用品、タンス、机、椅子、日用品、テレビ、ラジカセ、人形、本、家族写真、利用者の手作り作品が持ち込まれ、利用者が居心地の良く生活出来る様に環境を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室は個室になっており、プライベートは保たれ、安心して生活ができるようになっている。建物内は明るく清潔で廊下は広く手摺もあり安全・快適に過ごせる空間になっている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいの <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の3分の2くらいと <input type="radio"/> ③家族の3分の1くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

グループホーム 畑賀時計台

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 畑賀時計台

作成日 令和 3 年 10 月 28 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	18	入居者様が穏やかに過ごせるように職員の接遇の質を上げたい。	おもてなしの気持ちを持ち職員挨拶・言葉遣い・態度等の質の向上を目指す。	笑顔で挨拶、丁寧な声かけ、人格を尊重した対応を心がける。 (朝礼で唱和する)	12ヶ月
2	15	入居者様が安全且つ安心して生活を送っていただきたい。	職員一人ひとりが認知症について理解を深め介護技術の向上を目指す。	外部研修の希望を募る 法人内勉強は当日参加できなくても後日zoomで視聴できるようにする。	12ヶ月
3	13	職員が同じ方向性(法人理念)を持ち同僚を批判せず感謝と協力の気持ちを持って職務に就いているか。	職員が同じ方向性(法人理念)を持ち職務に就く。	キャリアアップシステムを導入して専門的な知識の向上意欲と経歴を高める。	12ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。